

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400120
法人名	社会医療法人アンリー・デュナン会
事業所名	グループホーム 優和の郷・信
所在地	深川市あけほの町1番35号
自己評価作成日	令和5年10月11日
	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。  
 基本情報リンク先URL [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0197400120-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0197400120-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイム401
訪問調査日	令和5年11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・生活リハビリ(食器拭き、掃除、洗濯物干し等)を通して役割を持った生活と身体機能の維持に努め、本人の望む生活に寄り添ったサービスの提供を心掛けている。  
 ・コロナウイルスの感染予防対策の為、外出制限を行っているが、外気浴や気分転換を兼ねてゴミ捨ての付添いや敷地内を散歩する機会を設けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1) 事業所の基本事項：市街中心部から車で10分程のあけほの地区に位置し、同敷地には母体医療機関、近隣にはコンビニ、スーパー等があり、利便性が高い環境下に立地している。  
 2) 職員の介護姿勢・態度等：職員は介護理念を念頭に利用者本位の生活となるよう、介護者側の都合で決めつけず、柔軟なケアを目標に自立支援、介護に努めている。  
 3) 家族等の介護への好意：来訪時やお便り等の報告の丁寧さ、細かさ、利用者の心身の変化に即応した対応に高い満足を得ている。  
 4) 運営推進会議の開催状況：コロナの状況を早ながら、家族、地域代表、行政等の参加、協力を得て開催しており、議事録を公開し、意見、要望を聞き取り、職員間で検討する事で運営に活かしている。  
 5) 地域組織・機関等との連携：地域は現在も自粛傾向にあるが、災害時の協力体制や地域行事参加等、連携を維持して、ホーム運営への理解に努めている。また、行政主催の行事や地域ケア会議等に参加、協力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の2/3くらい 2. 利用者の1/3くらい 3. ほとんど掴んでいない 4. ほとんどない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員2/3くらい 3. 職員1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議の際、定期的に介護理念を振り返り、理念に沿ったサービスの提供を行っている。		法人理念の他、事業所の介護理念が定められており、管理者を中心に申し送りや会議の場で、理念に沿った考え方を共有出来ているか、定期的に確認している。	
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内で行われるふれあい教室への参加や「認知症普及・啓発事業」へ施設内で作成した作品の貸し出しを行っている。		地域行事への協力、市の「認知症普及・啓発事業」への参加等、地域貢献の一端を担いながら一部制限の解除を行い、地域交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症普及・啓発事業」へ施設内で作成した作品の貸し出しを行い、地域に向けた活動内容の発信の一環としている。			
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	写真を添付した資料で活動状況を報告している。包括の担当者から事故報告への助言を頂き、再発防止へ活かしている。会議録は家族へ郵送、HPIに掲載することで外部へも公にしている。		家族、地域代表、行政の協力を得て定例で開催している。運営状況や現状の問題点が議論されており、議事録を家族へ送付、外部へはホームページで周知し、広く意見を聞き取り、運営に活かしている。	
5		○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に参加し、施設の空き状況等を報告し、市内の困っている高齢者の受入れを行っている。積極的に情報交換と協力体制を築いている。		行政窓口とは、各種の情報交換や地域的な支援体制の問題で連携して役割を担っており、地域ケア会議への参加や、地域高齢者や事業所の状況について、窓口と情報交換を行っている。	
6		○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、互いの施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会以外の職員も交えて3ヶ月に一度、身体拘束防止へ向けた検討会議を実施し、会議録へ職員全員が感想を記入することで検討内容の理解と周知を図っている。日中は施設せず、自由な生活の提供を行っている。		身体拘束、虐待について委員会を設置し、定例で開催している。委員会では、研修の充実、現状の検証を行い、内容について職員間で共有している。不適切なケアと思われる事は、その場で注意し合えるよう、取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	委員会以外の職員も交えて3ヶ月に一度、虐待防止へ向けた検討会議を実施している。別に接遇会も行っており、声掛けについて学習する機会も設けている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用する入居者が増えてきている為、成年後見制度や権利擁護を題材とした研修へ参加し理解を深めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	感染対策の為、見学や契約説明は人数制限をかけた行っており、なかなか希望に添った対応が取れない時もあったが、不安解消や理解を得られるよう努めた。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の希望を受け入れ、窓越し面会やリモート面会を導入した。入居者や家族の希望を聞き取り、サービスに反映させ、毎月発行するおたよりにて要望の実現や状況報告をしている。	面会は多様な方法について職員間で検討し、感染防止に留意・工夫しながら、制限の一部解除等、柔軟に対応している。電話や写真を添えたお便りで、生活・健康状態について伝え、意見を待っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コミュニケーションを密に図り、話しやすい雰囲気作り配慮している。会議で出た提案や要望は、その場ですぐに検討し、実現に向けた助言や対応をしている。	職員との情報共有と職務の分担、密な意見交換が不可欠であるため、日々実践的な方法を模索し、法人としても意見の集約に取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事の偏りが出ないよう定期的に業務改善を行い、仕事に対するやりがいやモチベーションの維持に繋げている。希望に合わせて有休も取れるようにしており、体調面に気遣った勤務環境を整えている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加も再開し、スキルアップに向けた取り組みを行っている。学習したい題材や理解を深めたい題材を職員が自ら資料作成し、会議や内部研修として扱っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ユマニコード委員会が発足し、法人内の全事業所から担当者が集まって学習する機会がある。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりを努めている	家族やケアマネージャーから頂いた情報提供を基に事前に本人の望む生活を理解把握し、サービスの提供に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりを努めている	家族の不安や困っていることを理解把握し、施設での生活が家族にとっても安心出来るものとなるよう寄り添い、信頼関係の構築に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	求めているサービスと必要なサービスの見極めを行い、本人と家族の要望を聞き入れながら入所手続き又は必要に応じて他施設の紹介提案を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係構築を努めている	自立した生活と見守る介護を軸にしている。介護される側一方の立場に置かず、入居者も介護員の一員となり、お互いに支え合う関係性を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支えられる一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所後も家族との関わりが切れないよう受診対応は極力家族にお願いしている。帰宅願望が出た際は、電話で声を聴かせてもらう等、家族に負担が増えない範囲でサポートしてもらっている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	密着し面会やリモート面会を導入し、感染対策を講じた上で家族や馴染みのある知人との縁が途切れないよう支援に努めている。		春以降、コロナの発生状況に合わせ、馴染みの場所や希望する場所への訪問は、職員の同行や家族の協力を得て、想いに添える様、柔軟に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要に応じて席の配置換えを行う等、入居者間の良好な関係が崩れない工夫を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族や関係機関と連絡を取り合い、必要に応じて家族の相談や支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	QOLの向上を図る為、1人ひとりに望む生活や楽しみめの聞き取りを行い、寄り添ったサービスの提供に努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が昔の記憶に戻った時にその時代の思い出を共有出来るよう生活史の理解把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌や個人記録を使い、情報共有を行っている。本人の出来ることは見守り、介助が必要な部分のみを支援することで残存能力を活かす工夫を行っている。			
26		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン内容についてカンファで意見交換を行ったり、LIFEの評価を基にケアプラン作成を行う等、多方面からの意見や情報も反映させ、状態の変化に応じて見直しもしている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録が一枚に集約された記録用紙を使用しており、情報共有の効率性を高めている。対応共有ファイルを活用し、統一したケアの提供に努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に生まれるニーズに施設側としてどこまで対応することが可能なのか柔軟な対応策を検討し、受診付添や買い物代行等、出来る範囲で対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しめることができるよう支援している	季節に合わせて散歩や外出をして、花や緑、自然に触れることで豊かな暮らしを楽しんでいる。			
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望する病院を尊重しながらも協力医療機関と連携体制があることを伝え、緊急時に適切な医療が受けられるよう必要に応じて医療機関の変更を行う等、入所時に相談を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝え、相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、訪問看護師が来訪し医療面でのサポートを得ている他、事故発生時の対応についても助言をもらっている。	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師や相談員と連絡を取り合い、グループホームで生活が送れる状態かの見極めを行い、少しでも長くそして早くグループホームでの生活が送れるよう入退院支援に努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に施設での生活が困難と判断する基準について説明を行い、少しでも長くグループホームで生活出来るようサポートを行うと共に体調の変化があった場合は、その都度家族に報告し意向の確認も行っている。	重度化や終末期における対応は、契約時に文書で説明し同意を得ている。重篤となった場合は、母体医療機関へお願いしているが、本人や家族の希望により、可能な限り寄り添えるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は訪問看護師とすぐに連絡が取れるよう24時間オンコール体制を組んでいる。感染症への対応訓練も定期的実施し、実践力を身に付けている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署職員立会いの下、防火訓練を実施し、助言を基に実践力を身に付けている。BCPを基に安否確認訓練を行い、ブラックアウト等の被害を想定した実践的な訓練を重ねている。	地震災害で得た教訓を活かし、火災・自然災害を想定した避難訓練を実施している。同法人の他のサービス事業所や地域町内会との災害時の協力体制があり、相互の役割確認を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に接遇委員会を開き、言葉掛けについて学習する機会を設けている。基本入居者の呼び方は苗字にさん付けで統一している。	職員は日々の接遇や言葉使い、望ましいケアについて職員本位の表現とならぬよう定期的には話し合っている。不適切と思われる対応については、都度、その場で改善に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話を傾聴することを大事にしている。意思表示が難しい場合は、短く簡単な言葉掛けを行い、自己決定への支援に繋げている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所前の生活を尊重し、本人の望む生活の提供に努めている。			
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	2ヶ月に一度、理美容のサービスを利用し、化粧も個人の自由としている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりに合わせた食事形態で提供し、食事の準備から後片付けも含め、職員と一緒に会話を楽しみながら食事の時間を過ごしている。	食事はお手伝いをお願いしたり、行事食、手作りのおやつのお供等、食事時が楽しみとなるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に体重測定や栄養スクリーニングを行い、健康状態や栄養状態を把握している。脱水にも注意し、摂取が難しい場合は、個別に補食を準備してもらい対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、必要に応じて歯科受診に繋がっている。定期的に口腔スクリーニングを行い、口腔内の状態を把握している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けや誘導でトイレでの排泄に繋がっている。尿道カテーテルを使用している居る者の尿測や破棄の支援を行っている。	職員は個々の心身の状況や排泄パターンなどをチェック表を活用して共有し、個々のトイレでの自立支援に取り組んでいる。衛生用品のサイズ感等、定期的に身体に合ったものに見直す機会を設けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の性状や回数、排便の無い日数を共有し、下剤の調整を行っている。体操に参加してもらい、身体を動かすことで便秘を解消する工夫も行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回入浴が出来るよう設定はしているが、本人の希望や体調に合わせて入浴日や時間帯、入浴方法を調整している。	週2回以上を目標に時間帯や入浴回数等、利用者の希望に応じて、快適な入浴となるよう支援も聞き取っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間や睡眠場所も決めず、いつでも休んでも良い環境にしている。夜間帯は本人に合わせてパッド類を選定し、睡眠を優先している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前のダブルチェックや個人毎にまとめた薬ケースで誤薬防止に努めている。職員一人ひとりが薬の目的を理解し、状況に応じて頓服の調整を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活ハビリティを通して役割を持った生活の支援や季節に合わせたレクを行っている。暑中見舞いの作成等、離れていても家族と繋がるきっかけ作りをしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のの人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の散歩や近隣ヘッドドライブに行くことで気分転換を図っている。	緩和後は感染防止に留意しながら、散歩や買い物等、個別対応にて可能な限り、外出が出来るよう支援している。コロナ禍で自粛していた行事等、職員間で再開に向けて話し合っている。	現在は個別に声掛けし、日常的に外気に触れる機会作りに努めている。職員間でコロナ前のような屋外での行事、レクの充実を検討していることから、その実現に期待したい。	
50	/	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に現金の所持は控えて頂いているが、所持することで安心される方は家族と相談し、トラブルに発展しないよう注意を払い、支援に繋がっている。			
51	/	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	個人で携帯電話を所持している入居者もあり、家族と連絡が取れるよう職員が介助を行っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温湿度の調整を行い、体調管理に気を配っている。ホールに金魚がおり、癒しの存在となっている。季節に合わせてホール内を装飾し、室内にないながらも季節感を味わえる工夫を行っている。	共用スペースは利用者の体感を聞き取りながら、温・湿度が適切に保たれている。職員と利用者が共同で作った作品が飾られ、明るく清潔で安全な環境作りに留意し、椅子やソファを各所に配置し、好きな場所で自由に過ごせるよう配慮している。		
53	/	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者間の関係を把握し、必要に応じて配置転換を行い、過ごしやすい空間の提供に努めている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みある物を置いてもらい、住み慣れた環境を整えている。必要に応じて居室にセンサーを設置し、安心安全な環境を確保しながら居室で自由に過ごせる工夫を行っている。	馴染みのあるタンスや生活用品、家族写真などが持ち込まれ、自室として落ち着けるよう配慮している。状態の変化では動線の確保を優先し、家族とも相談して家具等の整理を行っている。		
55	/	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレに目印を付けることで“分からない”を解消している。歩行状態に合わせて歩行車の使用を提案し、自立した生活が送れるよう努めている。			

## 目標達成計画

## 【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成 に要する期 間
1	49	コロナ禍で外部との接触や外出する機会が減っており、閉塞的な環境に置かれ、充実感や生きがいを感じる生活が送れていない。	個別ニーズの把握に努め、ご利用者様が望まれている生活が営めるよう個別ケアの提供を継続する。 また、感染対策を講じた上で屋外活動・レク活動の充実を図り、四季(季節感)を感じていたことで社会性を維持し、生きがいをもち、施設生活を継続していただけたサービスの提供を目指す。	野外活動に関しては、お花見・フルーツ狩り・紅葉見学など四季(季節感)に応じた活動の実施を検討していく。 また、レク活動に関しては、毎日のアクティビティの提供はもとより、季節行事(お正月など)に合わせた活動を盛り込むと共に、ご利用者様のニーズ(嗜好)に沿った行事食の充実を図っていく。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。